

## 1. 内政

### (1) 与党愛国党の新党首

バルデッティ副大統領（与党愛国党（PP）党首）は、昨年 9 月に同党大統領候補指名式に出席したことが違法であるとして、最高選挙裁判所に党首資格剥奪を命じられていたが、11 日、PP 執行部は、新党首として、グラマホ国会議員を選定した。グラマホ議員は、PP 結党者のうちのひとり。なお、第一副党首はロペス・ボニージャ内務大臣、第二副党首はマルティネス環境大臣、第三副党首はムアディ元国会議長、第四副党首はペレス・レアル・ミスコ市長（ペレス・モリーナ大統領の息子）に決定した。

### (2) みんなの党の大統領候補

21 日、みんなの党（TODOS）の党大会が開催され、同党最高指導者のロベルト・アレホス議員が次期大統領候補に指名された。党首については、フェリペ・アレホス議員が再選した。

### (3) 次期大統領選

本年 5 月の次期大統領選の選挙公示を前に、各党の大統領候補がソーシャルメディアを通じて、PR 活動を展開している。Prensa Libre 紙の調査によれば、バルディソン LIDER 大統領候補の Twitter アカウントが 23,400 人と最も多く、シニバルディ PP 大統領候補は 6,637 人、トーレス国民希望党（UNE）大統領候補は 6,702 人となっている。Facebook の「いいね！」の数は、シニバルディ PP 候補が 13.1 万件と最も多く、バルディソン LIDER 候補の 2 万件、トーレス候補の 1 万件と続く。一方、多くの支持を受けているかのように見せるため、ダミーのフォロワーが多い旨指摘されている（同紙によれば、バルディソン候補のフォロワー数の 58%、シニバルディ候補の 54%、トーレス候補の 38%がダミー・アカウント）。

### (4) ポルティージョ元大統領の刑期終了

米国で資金洗浄による有罪判決を受け、同国で収監されていたポルティージョ元大統領は、25 日、刑期を終えてグアテマラに帰国した。ポルティージョ元大統領は、政党や要職の人事委員会システム等の政治制度改革の必要性を訴えた。本年の総選挙への出馬は否定したものの、憲法改革を推進する国民戦線には参加の可能性がある旨述べた。

## 2. 外交

### (1) 第 17 回日・中米「対話と協力」フォーラムの開催

6 日、グアテマラ市において、第 17 回日・中米「対話と協力」フォーラムが開催された。同フォーラムには、高瀬外務省中南米局長及び SICA 各国の外務次官が出席し、前回フォーラムにおける合意事項の進捗状況、日本の外交・安全保障政策、国際場裡における協力、

中米統合の現状、第 2 回日・中米ビジネスフォーラム等について協議した。

(2) トリニダード・トバゴとの部分到達協定の締結

6 日、モラレス外相及びドゥケラン・トリニダード・トバゴ外相は、部分到達協定に署名した。同協定により、数品目に特惠関税が付与される。

(3) モラレス外務大臣の米国訪問

11 日、モラレス外務大臣は、米国ワシントンで開催された米州開発銀行 (IBD) との会合において、マルティネス・エルサルバドル外務大臣及びコラレス・ホンジュラス外務大臣と共に、「北部三角形繁栄のための同盟」に関する戦略計画書を IBD に提出した。

(4) ペレス・モリーナ大統領のエルサルバドル訪問

5 日、ペレス・モリーナ大統領は、エルサルバドルを訪問し、サンチェス・セレン・エルサルバドル大統領と関税同盟の推進、貿易振興、移民規制等について協議した。

(5) シニバルディ与党大統領候補によるベネズエラ批判

シニバルディ与党愛国党 (PP) 大統領候補は、マドゥーロ・ベネズエラ大統領に対し、同国で収監されている反体制派のレオポルド・ロペス氏の解放を求めた上で、ベネズエラが反体制派を投獄するようなことを続けるのであれば、(シニバルディ候補が大統領に選出された後) ベネズエラとの関係を断絶する可能性がある旨述べた。

(7) 米州機構

モラレス外相は、当国を訪問したアルマグロ・ウルグアイ外相に対し、次期米州機構 (OAS) 事務総長選挙に立候補している同外相への支持を表明する旨伝えた。

(8) ジェンティローニ伊外相の当国訪問

18 日、ジェンティローニ・イタリア外相が当国を訪れ、モラレス外相と会談を行った。会談では、本年ミラノで開催される国際博覧会へのグアテマラの参加、本年 6 月に開催される第 7 回イタリア・ラテンアメリカ会議、イタリアによる対 SICA 協力等について協議した。

(9) 関税同盟

26 日、ペレス・モリーナ大統領はホンジュラスを訪れ、エルナンデス同国大統領と会談を行い、関税同盟に関する協定に署名した。本年 12 月 15 日の協定発効後は、両国間のアグア・カリエンテ税関、エル・フロリド税関及びエントレ・リオス・オ・コリント税関の税務行政が終了し、ヒト・モノの移動が自由となる予定であり、特に中小・零細企業に裨益する。同協定の署名により、短期的に 15%の経済成長が見込まれる。ペレス・モリーナ大統領は、2016 年 3 月には、エルサルバドルとも関税同盟協定に署名したい旨述べた。

### 3. 経済

(1) 中米・カリブ地域最大の太陽光発電所

3 日、グアテマラ南部サンタ・ロサ県チキムリージャ市において、中米・カリブ地域最大の太陽光発電所が稼働を開始した。同発電所は、スペイン企業 Grupo Ortiz 社の出資 (1 億

米ドル) によって建設され、出力は 58 メガワット。開業式に出席したペレス・モリーナ大統領は、今後、グアテマラは中米最大レベルの発電国になるだろうと述べた。

#### (2) 徴税額

国税庁は、1 月の徴税額が 47.81 億ケツアル (約 6.30 億米ドル) に達し、目標額 47.73 億ケツアル (約 6.29 億米ドル) を上回った旨発表した。エコノミストは、税関における徴税強化が要因のひとつであると分析している。

#### (3) 銀行口座開設数の増加

銀行監督庁によれば、2014 年末時点での銀行口座数は 1,543 万口座に上り、前年比で 15% 増加した。

#### (4) 未成年労働

当地主要シンクタンク ASIENS の研究によれば、グアテマラでは 70.2 万人の未成年 (7 歳 ~17 歳) が労働に従事しており、そのうち 60%は無報酬であり、また、97%が社会保険を付与されていない。労働法は、14 歳未満の労働を禁止している。

#### (5) 最低賃金

憲法裁判所が、地方 4 市における最低賃金を 1,500 ケツアル (約 198 米ドル) とする政令を停止する仮処分を下したことについて、同 4 市の市長は雇用創出のためには同政令の施行が必要であるとして、憲法裁判所に仮処分の撤回を求めるとの考えを示した。

#### (6) 海外送金の増加

グアテマラ中央銀行によれば、本年 1 月の当国への米国内出稼ぎグアテマラ人等からの海外送金額は、407.4 百万米ドルに上り、前年同月比で 3.4%増加した。

#### (7) 再生可能エネルギー供給の増加

グアテマラにおける 2007 年の再生可能エネルギー (水力、バイオマス、地熱等) の割合は、発電供給量の 50.24%であったが、2014 年には 64.94%にまで上昇した。

#### (8) 三菱電機のグアテマラ進出

三菱電機は、グアテマラ資本の販売代理店 Refripro 社を通じて、同社のエアコン等の製品をグアテマラにおいて販売する旨発表した。

#### (9) 通関の迅速化

24 日、グアテマラ経済省は、エルサルバドルとの国境沿いの税関 (ペドロ・デ・アルバラードーラ・アチャドゥーラ間) の通関時間を削減するパイロット事業を開始する旨発表した。

#### (10) 欧州向けアボカド輸出増加見通し

Agexport (グアテマラ輸出業者組合) によれば、グアテマラは、中米・EU 連携協定 (AdA) のメリットを活用し、欧州向けのアボカド (ハス種) の輸出を開始する。アボカド (ハス種) の欧州への輸出は初めてであり、ハンガリー、ドイツ、チェコ等が関心を示している。

#### (11) 電力普及率

18 日、ペレス・モリーナ大統領は、グアテマラ北部ペテン県の変電所の開所式に出席し

た。同変電所の設置により、グアテマラの電力普及率は、91.5%に達した。

(1 2) 聖週間における観光客増加見通し

アセバド観光庁副長官は、聖週間に約 5 万人の外国人観光客がグアテマラを訪れ、前年同期比で 42.85%増加する見通しである旨述べた。

(1 3) 政策金利の引下げ

25 日、グアテマラ中央銀行は、政策金利を 4.00%から 3.50%に引き下げる旨発表した。

(1 4) LCC の就航

26 日、観光庁は、LCC の Veca 航空（エルサルバドルの航空会社）が就航した旨発表した。低価格の運賃（グアテマラーエルサルバドル間が往復 189 米ドル、グアテマラーコストリカ間が往復 199 米ドル）での旅行が可能となる。

(1 5) 自動車輸入の増加

2014 年にグアテマラに輸入された自動車は、99,795 台（新車 29,906 台、中古車 69,889 台）であり、前年比で 15.3%増加した。

◇主要経済指標◇

	2015年		2014年	2013年	2012年
	2月	1月	12月		
インフレ率（前年同月比）	未発表	2.32%	2.95%	4.39%	3.45%
貿易収支（百万ドル）	未発表	未発表	△573.0	△7,487.2	△7,015.7
輸出（百万ドル）	未発表	未発表	937.0	10,024.8	9,978.7
輸入（百万ドル）	未発表	未発表	1,510.0	17,517.9	16,994.4
外貨準備高（百万ドル）	未発表	7,656.0	7,333.4	7,272.6	6,693.8
外国からの送金（百万ドル）	未発表	407.43	496.02	5,105.2	4,782.7
為替レート（対ドル月平均）	7.64	7.63	7.62	7.86	7.83

（出所：中銀、国立統計局）

注）2012 年及び 2013 年の為替レートは年平均

#### 4. 治安・社会

(1) 未成年女性の結婚

シンクレア記者（ピューリッツァー賞受賞者）が国連人口基金の支援を受けて実施した調査によれば、グアテマラ女性の 13%が 15 歳未満で結婚しており、2015 年には 55 万人の 18 歳未満の女性が結婚する見通し。同記者は、これらの多くの女性が性犯罪被害に遭い、勉学を中断せざるをえず、また、結婚後は成年男性に女中のような扱いを受けていると指摘した。

(2) マリンバの米州文化遺産登録

12 日、グアテマラの代表的楽器であるマリンバ（木琴）が米州文化遺産に登録された。ペサロッシ文化大臣及びエストラーダ外務次官は、インスルサ米州機構事務総長から認定書を受け取った。

### (3) 世界報道自由度指数

国境なき記者団（本部：フランス）が発表した「世界報道自由度指数 2015 年」報告書によれば、グアテマラの報道自由度指数は、調査対象となった 180 か国中 124 位となった。なお、コスタリカは 16 位、ベリーズは 30 位、エルサルバドルは 45 位、ニカラグアは 74 位、パナマは 83 位、ホンジュラス 132 位となった。

### (4) 1月の殺人件数

本年 1 月の殺人による被害は 488 人（1 日あたり 15.7 人）に上り、前年同月の 484 人より微増した。グアテマラ県だけで 101 人が被害に遭い、首都では第 6 区が最も殺人被害が多かった。最も殺人が多かった日は、1 月 1 日で 34 人。

### (5) フェゴ火山の噴火

7 日、グアテマラ市南西部に位置するフェゴ火山が噴火し、火山灰はグアテマラ県、サカテペケス県、エスクイントラ県及びチマルテナンゴ県に到達した。首都ラ・アウロラ空港が閉鎖し、110 便が欠航、約 6 千名の旅客に影響を及ぼした。

(了)